今月の御教え

女の身の上、月役、妊娠、つわりに、腹痛まず。腹帯をせずして、産前、身軽く、隣知らずの安産。産後、よかり物、団子汁をせず、生れた子に五香いらず、母の乳をすぐ飲ませ、頭痛、血の道、虫気なし。不浄、毒断ちなし、平日のとおり。

……金光教祖御理解第八十五節……

解説

当時、出産において、楽にお産が出来るように胎児が太らないよう『腹帯』で締め付けていましたが、それは人間の浅知恵であって、それではかえって胎児も母体も痛めることになるから『腹帯』はやめよとのお言葉であり、又産後は『血の道』になって苦しまないように、布団などを積み重ねた『よかり物』に身体をもたれかかれるようにして、血が頭に降りるのを防ぐようにしていましたが、そんなことをせずに楽に寝ていることが一番である、との御教えであります。

又、産後に団子汁よりも、栄養のあるものを食べさせ、又、乳児には『五香』を飲ませたりするより『母の乳をすぐ飲ませ』と当時のみならず昭和になっても濁った不純物だとして捨てていた『初乳』を直ぐ飲ませるようにとの御理解であります。

以上の出産にかかわる事柄が今でこそ正しいこと、当然のこととなっておりますが、金光教祖様がこの教えを説いた当時は、世間の人々からは、まったく奇想天外のことの様に思われたのでありますが、このように神様・金光様の教えが、医学・科学において、はるかに時代を先んじていたことに驚きを禁じ得ません。正に天地金乃神様、金光大神様の教えは、天地の道理、真理であることが窺える御教えであります。